

報告文献別一覽表

感染症定期報告の報告状況(医療機器・用具 2004/4/1～2004/9/30)

	感染症	出典	概要
1	E型肝炎	American Journal of Tropical Medicine and Hygiene, 66(4), 2002, 384-388	養豚場労働者(暴露群)の10.9%からHEVが検出され、非暴露群の2.4%の4.5倍の確率で感染していた。養豚場と同一地域のブタからはHEVが検出されたが、ネズミからは検出されなかった。
2	E型肝炎	Current Topics in Microbiology and Immunology 2003; 185-216	HEVは世界中のブタでみられ、ヒトに感染しヒト-ヒト感染を起こす人畜共通感染症の可能性はあるが、異種移植による感染はドナーブタへの適切なスクリーニングと厳格な飼育により防ぐことができる。
3	E型肝炎	Emerging Infectious Diseases 2004; 10(5): 953-955	英国のHEV患者から分離されたHEV株のヌクレオチドの配列と、英国の養豚一説で認められたHEV株および日本の豚肉から検出されたHEV株のヌクレオチド配列と相同性が高かった。
4	E型肝炎	Journal of Clinical Microbiology 2003; 41(8): 3602-8	韓国において、ブタ血清試料からブタHEV分離株を3株同定したこと、供血者の18%は抗ブタHEV抗体陽性であったことなどから、ヒトとブタの間に無症候性HEV感染が流行している可能性が示唆された。
5	E型肝炎	Journal of Medical Virology, 73, 38-44, 2004	1996年インドネシア(バリ、ロンボク、スラバヤ)で健康人の血清中におけるHEVに対するIgG抗体保有率を調べた(各20%,4%,0.5%)。ブタを食べる習慣のあるバリ島におけるブタの72%がHEV抗体を保有し、日本などの他の地域と類似性の低い遺伝
6	E型肝炎	Journal of Viral Hepatitis, 11(3), 2004, 263	ブタE型肝炎の感染経路を調べるのに、試料をホルマリンで固定した後パラフィン中に包埋するのが効果的の方法である。
7	E型肝炎	PubMed (Veterinary Record, 154(8), 223-7, 2004/02/21)	イングランドの養豚2群から採取した血清、組織、糞について、HEVの部分的連鎖が各群から1株確認された。
8	E型肝炎	WHO Communicable Disease Surveillance & Response,	スーダンで起きた急性黄疸症候群625症例(22死亡)について、23試料からHEVが検出された。
9	E型肝炎	Xenotransplantation 278 185-216	ブタHEVは、ブタで最近発見された偏在する因子で、非遺伝子的にも遺伝子的にもヒトHEVと近縁である。ブタにおける感染は一般的には生後2から3ヶ月で発生する。異種間感染も認識されており、ブタHEVは非人類霊長類に影響し、あるヒトHEV株はブタに感染することも知られている。異種間移植においてもブタHEVの偏在性と異種間感染性から感染リスクが心配される。
10	E型肝炎	医学のあゆみ 2003; 207(8); 561	市販のブタ肝臓の約2%からHEV遺伝子が検出、加熱調理が不十分なブタ肝臓の摂取がE型肝炎発症の原因となりうるものと推測した。
11	E型肝炎	北海道獣医師会雑誌 2003; 47(9); 345-350	HEVは急性肝炎・劇症肝炎を起こすウイルスで、長い間、輸入感染症として考えられていたが、国内でも散発的に発生している。最近の研究では、野生ラットをはじめシカ、ブタ、イノシシなどがHEVの宿主として考えられており、シカ肉の生食、ブタ肝臓の生食にとる感染例が報告されている。
12	E型肝炎	養豚の友 2003; 10: 54-7	E型肝炎はA型肝炎同様、経口感染し、感染してから発症までの潜伏期間が平均40日と長いこと、ウイルス血症の期間が6週間と長く、それに伴い糞便中への排出
13	E型肝炎	養豚の友 2003; 417: 30-34	E型肝炎は人畜共通感染症として側面有し、HEVは豚集団に高率に浸潤していることが明らかにされている。しかし、HEVは通常の加熱によって不活化され、感染のリスクはなくなるとされている。
14	E型肝炎	Hepatitis Weekly, 2004/04/05, p30	英国の養豚群でE型肝炎が蔓延している。
15	HIV	CDR Weekly, 14(28), 2004/07/08	UNAIDSによるReport on the global AIDS epidemicの概要。現在3780万人がHIVに感染し、2003年は480万人が新たな感染者でそのうちアフリカが6割(300万人)を占める。先進国でも160万人が感染し、全体の半数が女性となり、新規感染者の半数が15-24才の若者である。
16	インフルエンザ	OIE Disease Information, 17(15), 2004/04/09	テキサスで鳥インフルエンザ(H5N2)が確認された。感染した建物は洗浄・消毒され、新たな感染は見つかっていない。
17	インフルエンザ	OIE Disease Information, 17(30), 2004/07/23	カナダで鳥インフルエンザ(H7N3)が発生し、鳥100万羽以上が処分され、建物を洗浄・消毒した。その後新たな感染は見つかっていない。
18	インフルエンザ	Veterinary Sciences Tomorrow 9/15 2003	ブタインフルエンザは一種の人畜共通感染症であり、ブタがヒトウイルスとトリウイルスの間で遺伝子再配列を起こすための中間宿主あるいは「混合容器」の役割を果たしているものと考えられる。
19	インフルエンザ	WHO HP 1/22, 2004	鳥インフルエンザの大規模流行は、ヒトへの暴露を増大させ、ヒトとトリのインフルエンザが共感染を起こし、新型インフルエンザ亜型を誘発する可能性も有り得る。新型インフルエンザウイルス亜型の出現を防ぐには感染した鳥集団を早期に殺処分し、ウイルスを根絶することである。

	感染症	出典	概要
20	インフルエンザ	WHO/CSR, 2004/08/24	最近のH5N1型の流行やインフルエンザウイルスが種の壁を越えていく可能性を考えると、ブタでH5N1型が検出されることは避けられないだろう。
21	インフルエンザ	化学療法の領域 20(2),2004, 209-215	トリインフルエンザはトリからヒトへ直接感染しないと考えられていたが、ブタを宿主とした遺伝子再集合により感染性のウイルスになった可能性がある。
22	インフルエンザ	最新医学 2004 59(2); 257-262	家きん、家畜とヒトのA型インフルエンザウイルスの遺伝子は、野生水きんの腸内ウイルスに起源がある。前世紀に出現した新型ウイルスは、いずれもカモのウイルスが家きんを経て、ブタの呼吸器にヒトのウイルスと共感染して生じた再集合体である。野生水きん、家きん、ブタとヒトのグローバルサーベイランスを強化して、新型ウイルスの亜型を予測するとともに、ワクチンウイルス株と遺伝子を保管・供
23	インフルエンザ	養鶏の友(504) 2004.2 22-25	世界各国のトリインフルエンザの発生状況等
24	インフルエンザ	養豚の友 2004; 420: 50-52	一つの細胞の中で、豚型ウイルスと鳥型ウイルスが同時並行して複製される場合に、初めて遺伝子組み換えが起きる可能性が生じる。人の体内での組み換えは、豚における場合よりも少ない。
25	インフルエンザ	TB & Outbreaks Week, 2004/05/04, p9	アジア8ヶ国で起きたトリインフルエンザについての概説。ベトナムとタイではH5N1型がヒトに感染し、32人中22人が死亡した。家禽は1億羽以上が殺処分された。
26	インフルエンザ	鶏の研究, 79(1), 2004, 38-41	2002年12月におきた香港のトリインフルエンザH5N1型の流行と、2004年2月におきたオランダのH7N7型の流行についての概況。
27	ウイルス感染 (ニパウイルス)	化学療法の領域 20(2),2004 187-190	ニパウイルスは自然界では、こうもりをウイルス保有動物として生息している。こうもりから養豚場のブタにウイルスが感染し流行を起こした後、主として養豚場で働く労働者に感染が広がった例である。
28	ウイルス感染 (ニパウイルス)	畜産の研究 (2004,1), 58(1),36-40	1997年から1999年にかけてマレーシアおよびシンガポールで急性脳炎が流行し、死亡者105名を超えたほか、大量のブタが殺処分された。新種のニパウイルスによるのだと確認され、自然宿主であるオオコウモリからブタへ伝播したウイルスが増殖し、ヒトに感染したと考えられている。
29	ウイルス感染 (ブタ内因性レトロウイルス)	Journal of General Virology 2003; vol.84: 2729-34	ブタ内因性レトロウイルス(PERV)の異種感染の防御は、異種移植する際に非常に重要なことである。最近、ヒトに感染しやすく、交雑配列をもつ複製された反応性PERVゲノムが観察されている。
30	ウイルス感染 (ブタ内因性レトロウイルス)	Virology 2003; 314(1): 125-33	ヒトに感染するブタ内因性レトロウイルス(PERV)AやBはヒト細胞に感染し得るので異種移植を受ける患者には潜在的なリスクがある。PERV-Aの受容体結合部位を含む組み換えウイルス、及びLTRを含む生態感染PERV-Cのゲノムの大部分において同様なリスクは存在する。
31	ウエストナイルウイルス	CDC HP, 2004 West Nile Virus Activity in the United States, 2004/09/07	2004年1月1日から9月7日までにCDCに報告されたWNVの症例数。1191症例のうち、死亡は30例あった。
32	ウエストナイルウイルス感染	CDC MMRW, 53(07), 154-157, 2004/02/27	フラビウイルスに妊娠期間中に感染した場合まれに突発性流産と乳児製疾患が起きることについて、CDCが妊娠期間中にWNVに感染した場合の影響を調査するガイドライン(暫定版)を作成したことについて。
33	ウエストナイルウイルス感染	CDC MMRW, 53(13), 281-284, 2004/04/09	米国において、600万件のWNVサーベイランスの結果、供血から少なくとも818件のウイルス感染があり、654例(81%)が不顕性感染であった。NATによるスクリーニングにより安全性は高くなっているものの、スクリーニングでは検出されなかった低量のウイルスからのWNV輸血起因感染が6例認められている。ウイルス伝播の
34	ウエストナイルウイルス感染	CDC MMRW, 53(29), 661-662, 2004/04/09	アメリカにおけるWNVの感染状況。2004年の合計感染者数は18州から265例となった。
35	ウエストナイルウイルス感染、ウイルス感染(ニパウイルス)	養豚の友 2003; 9: 53-55	WNVの感染経路は蚊が飛行機で運ばれたか、密輸された鳥類によると考えられている。また、マレーシアにおけるニパウイルス流行を追跡すると、ブタとの接触のあることが判明した。ニパウイルスの固有宿主はフルーツコウモリとされ、森林を開拓して養豚場を設けたことにより感染が起きたと推定されている。
36	ウイルス感染 (ニパウイルス)	Weekly Epidemiological	2004年1月バングラデシュでおきたニパウイルス感染についての調査状況について。2001年2003年の流行時に比べて広範囲に広がっている。
37	エルシニア感染	CDC MMWR, 10/10, 2003/52(40): 956-8	2002年12月から2003年1月にかけて、the Chicago Department of Public Healthは、10週間でシカゴの1歳以下の乳幼児9名に報告されたエルシニア・エンテロコリチカの集団発生を調査した。その結果、食用小腸(例えば、ブタの小腸)に曝露された乳幼児には腸管感染症が継続するリスクが明らかになった。
38	エルシニア感染	畜産の研究 2004; 58(1): 102-105	エルシニア症は、通常食中毒菌として知られる菌である。代表的な保菌動物はブタであり、ヒトへの主たる感染経路は食品を介した経口感染である。
39	エルシニア感染	養豚の友 2004; 419: 55-58	エルシニア・エンテロコリチカは、自然界に広く分布しているが、病原性のない菌株が大半である。本菌は、動物に対する病原性が低く、腸管内に常在菌として保菌されているため、伴侶動物の飼い主が気づかないまま子供が感染するおそれもある。感染源としては、食肉特に豚肉が感染源として重要であり、汚染された沢水の
40	カンピロバクター	Journal of Food Protection 67(2),2004 228-234	ヒトとブタの分離菌の間で観察された遺伝的多様性とブタ分離菌の毒性が低いことから、ブタの育成に関連したカンピロバクターのヒトへの感染の危険度は低いことが示唆された。

	感染症	出典	概要
41	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC MMRW, 53(Early Release), 2004/05/07 OIE Disease Information, 17(27), 2004/07/02	ニュージャージーのCJDによる死亡が疑われていた17症例について、1988～92年にかけてレストランでBSE感染牛の肉が提供されていたのが原因と疑われていたが、共通の感染源ではないことの報告。
42	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC MMWR, 1/9, 2004/52(53): 1280-5	米国農務省は、ワシントン州の食肉処理場で処理されたホルスタイン種ウシ1頭が、米国で初めてのBSEであると推定診断されたと発表した。
43	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA Consumer magazine, May-June 2004 Issue	米国初のBSE症例について、緊急事態への対応、新たなセーフガード、その他医薬品食品等の措置、など。
44	クロイツフェルト・ヤコブ病	Japanese Journal of Infectious Diseases, 56(5-6)p221-222 2003	茨城県で2003年に屠殺された生後23ヶ月齢のホルスタインから、典型的なBSE関連プリオン蛋白のものと異なる電気泳動像を示す少量のプリオン蛋白が見つかった。
45	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Disease Information, 17(27), 2004/07/02	スイスの動物園でBSEが1例発生した。えさの骨肉粉が原因と考えられる。
46	クロイツフェルト・ヤコブ病	THE LANCET 2004; vol.363, February 7, 417-421	英国で輸血によるvCJD感染の可能性を示す症例が1例確認された。
47	クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine, online 2004/05/23	フランスの研究グループによると、スクレイパーに罹患したヒツジの筋細胞中に異常プリオンタンパクが少量であるが蓄積する。異常プリオンの筋肉への蓄積は、食用肉の家畜では初めてである。
48	サルモネラ症	Emerging Infectious Diseases 2004; 10(1): 60-68	台湾でヒトとブタからのサルモネラ菌を分離し調査したところ、共通した遺伝子型を持つ菌にシプロフロキサシン耐性、さらに多剤耐性があることがわかり、ブタがヒトへの感染源となりうることを示唆する。
49	サルモネラ症	Journal of Applied Microbiology, 95, 2003, 891-903	屠殺場でのサルモネラ菌の交差汚染について。
50	サルモネラ症	Journal of Food Protection, 67(2), 2004, 264-270	トリから分離されたSalmonera enteritidisの多くは、多剤耐性であった。
51	ハンタウイルス	European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases, 2004/08/18	フランスにおいて初めて、ソウル型ハンタウイルスが野生ラットから検出された。ヨーロッパにおけるハンタウイルスは、Puumala型、Dobrava型、Tula型、Saaremaa型に加えてSeoul型の診断と臨床認識が必要である。
52	マイコバクテリア感染	養豚の友 2003; 11: 48-50	抗酸菌の仲間は結核菌と非定型抗酸菌に大別される。結核菌にはヒト型とウシ型があり、最も重要な人畜共通感染症の一つである。抗酸菌は細胞壁の脂質含量が高く、抗菌剤への抵抗性が高いため、抗結核薬は種類が少ない。さらに、非定型抗酸菌はそれらの結核薬に対し自然耐性であることから、治療は困難とされ
53	レトロウイルス感染	Hepatology Research 2003; 26: 106-113	異種移植および体外治療に関する組織供給源として、ブタドナーからの臓器や細胞を臨床に使用することは、ブタ内在性レトロウイルス(PERV)という人畜共通感染症に対する危険性から、これまで問題視されてきた。そのため感染性を評価することが重要であり、その評価及び感染不活化処理に関する研究を行い、その結果
54	レプトスピラ症	ProMED, 20040807-0130 (ProMED mail)	レプトスピラ症の主な血清型はウシとブタが保有する。1970～80年代には400～600人の患者が報告されたが、今もウシ、ヒツジ、シカで発生しており、ヒトへの感染源になる可能性がある。
55	レプトスピラ症	Scandinavian Journal of Infectious Diseases 2003; 35(11-12): 869-872	ブリガリア保健省にレプトスピラ症と確認されて報告のあった症例について分析を行った。伝播の主たる様式は職業上からレクリエーションの際の暴露へと移行する傾向があることが認められた。漁業および家畜・畜産業に従事するものがレプトスピラ症例の半分以上を占めた。レプトスピラ症は動物の糞便との間接的な接触によって感染することが多く、動物の尿や組織との直接接触では感染の頻度は少ない
56	レプトスピラ症	WHO/GSR,	ケニアの高校で141例のレプトスピラ患者(うち6名死亡)を確認した。
57	感染症全般	Canadian Food Inspection Agency, Information bulletin, 2004/08/03	カナダ食品分析センターがHACCPの手法を用いたon-farm-food safety programというブタの安全性確認法を確立したと発表した。
58	狂犬病	Health Canada, Infectious Diseases News Brief, 2004/07/16	臓器提供者が狂犬病ウイルスに感染しており、臓器の提供を受けた患者3名が狂犬病で死亡した。
59	狂犬病	OIE Disease Information, 17(31), 2004/07/30	アメリカで2004年7月に狂犬病が疑われる牛14例、犬2例が殺処分された。感染源は野生の狐、狼等との接触。

	感染症	出典	概要
60	呼吸器症候群	OIE Disease Information, 17(26), 2004/06/25	2004年6月におきたアフリカ地区で初の呼吸器症候群(PPRS)の事例。感染が疑われるブタの総数は約2500例(罹患60頭以上、死亡2頭)で、感染源は調査中。
61	口蹄疫	OIE Disease Information, 17(14), 2004/04/02	米国で牛の口蹄疫が12例発生した。
62	口蹄疫	OIE Disease Information, 17(31), 2004/07/30	今までにブラジルで起きた牛の口蹄疫疑い130例のうち、3頭が殺処分され、感染リスクのある31頭も処分された。
63	口蹄疫	OIE Disease Information, 17(33), 2004/08/13	コロンビアで口蹄疫が1例起きた。今までに疑われている症例が26例、確定10例である。
64	口蹄疫	OIE Disease Information, 17(8), 2004/02/20	モンゴルで口蹄疫の疑いが新たに3例発生し、これまでに牛で1147例(うち251頭処分)、ヒツジで4674例(うち552頭処分)となった。
65	口蹄疫	ProMED, 20040802-0010 (Xinhuanet.com, 2004/07/30)	フィリピンの農場3箇所でも口蹄疫が発生した。
66	細菌感染	Journal of Clinical Microbiology 2004; 42(2): 753-758	無菌と考えられているヒト尿に生命力はあるが、培養できない状態の細胞が存在し得ると考えられた。よって、生命力はあるが培養できない状態の細胞が、今まで無菌的であると考えられていた領域に存在し、常在細菌叢を形成している可能性
67	細菌性肺炎	Journal Infection Disease, 188, 1717-1723, 2003	タイで見られたRhodococcus equi感染の散发事例69例について、分離されたうち72株が中等度毒力株であり、17株が無毒株だった。ブタから採取した顎下リンパ節500検体のうち、4検体から中等度毒力株が分離された。
68	重症急性呼吸器症候群	WHO/WPR/SARS, 2004/07/22	2004年7月の北京のSARS流行についての調査で、研究所が汚染されたことが流行の原因になった、とする調査結果の概要。
69	水泡症	OIE Disease Information, 12/26 2003; Vol.16-No.52	ポルトガルの1農場でブタ12頭に水泡症が発生したとの報告があった。上記の患者では、RT-PCRで陽性と判定されるまでの30日間は、何らの異常所見は見られていないが、RT-PCR陽性豚から、培養により風疹ウイルスが単離・同定された。
70	水泡症	OIE Disease Information, 17(33), 2004/08/13	米国の17農場でブタの水泡症が流行した。
71	炭疽	ProMED, 20040811-0030 (UA.com website, 2004/08/09)	ウクライナで9名が炭疽で入院した。これより前にヒツジから炭疽5頭が報告されており、87名が感染したヒツジに接触していた。抗生剤の予防内服等の対応をおこなっている。
72	腸管出血性大腸菌性腸管感染	感染症学雑誌, 77(12), 1032-1038, 2003	ブタ糞便からVTECが10.7%で分離され、ヒトのVTEC感染症から分離されているO157:H7,O112ac:H-の血清型が存在し、多剤耐性株が多いことが明らかになった。
73	豚コレラ	OIE Disease Information, 1/9 2004; Vol.17-No.2	2003年4月及び5月、マレーシアにおいて豚コレラが流行、感染が疑われる豚2,500頭、感染した豚1,500頭、死亡500頭であった。
74	豚コレラ	OIE Disease Information, 17(13), 2004/03/26	アルバニアでは2003年12月に豚コレラが1例あり、今までに幹線の疑いのあるブタは計10例(10頭処分)となった。
75	豚コレラ	OIE Disease Information, 17(17), 2004/04/23	タンザニアでは2004年2月10日以降4月13日までに、3例の豚コレラが発生し、今までに感染の疑いのあるブタは計110例(罹患47頭、死亡34頭、処分29頭)となった。
76	豚コレラ	OIE Disease Information, 17(21), 2004/05/21	ブルガリアにおける豚コレラの発生について、感染の疑いがあるブタは計89例(死亡4頭、処分85頭)となった。
77	豚コレラ	OIE Disease Information, 17(32), 2004/08/06	2004年7月鹿児島で未承認豚コレラワクチンを投与した豚において、ワクチンが原因と思われる抗体陽性の豚196頭が発見された。ウイルスは検出されず、臨床症状もなかった。
78	豚コレラ	OIE Disease Information, 17(33), 2004/08/12	スロバキアで2004年7月に豚コレラが1例報告され、今までに感染の疑いのある豚は324頭(323頭処分)となった。
79	豚繁殖・呼吸障害症候群	OIE Disease Information, Vol.17, No.26, 2004/06/25	妊娠豚250頭中60等に早産が発生し、豚繁殖・呼吸障害症候群(PPRS)に典型的な症状が見られた。血清15試料をELISAで分析した結果、陽性であった。疾病の原因等は調査中である。
80	日本脳炎B型	動物衛生研究所HP, 2004/05/28	日本脳炎はウマやヒトは週末宿主であるが、ブタは他の動物への感染源となる。妊娠ブタが感染すると死産流産が発生し、種雄ブタでは造精機能障害が起こるこ

	感染症	出典	概要
81	類丹毒症	Irish journal of medical science; 172(2) 81-82	豚丹毒菌は環境にあまねく存在する細菌であり、さまざまな疾患の原因となりうるもので、その感染リスクは感染動物または群体形成動物に対する職業暴露のレベルと密接に関係している。そこで、この人畜共通感染症の臨床的特徴および治療を考察し、この病原菌に対する認識を高め、感染リスクの軽減には衛生作業に細かい注意が必要であることを説明している。
82	類丹毒症	養豚の友 2003; 12: 50-53	豚丹毒菌は、ヒトの類丹毒症の原因であり、古くから知られている人畜共通感染症の一つである。豚丹毒菌は自然界に広く分布しており、熱や消毒薬に弱い、自然環境での生存性が高い。